

(様式5)

調査報告書

訪問調査日	平成20年 12月 16日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 15時 40分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム ひまわり (鹿児島県)
-------------------	--------------------------

外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名 中村 朋美
	氏名 浜田 千里
事業所側対応者	職名 代表者 ・ 管理者
	氏名 森田 八重子 ・ 森田 真美 ヒアリングを行った職員数 3 名

<p>※記入方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。 ●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。 <p>※項目番号について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外部評価項目は30項目です。 ○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。 ○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。 <p>※用語について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある) ●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。 ●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。 ●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。 <p>関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。</p>
--

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月20日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4672700145号		
法人名	有限会社 ひまわり苑		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	鹿児島県南九州市川辺町上山田4239番地5 (電話) 0993-58-9038		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年12月16日	評価確定日	平成21年1月4日

【情報提供票より】(平成20年11月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 9月 9日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 4人, 非常勤 6人, 常勤換算	7.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,200(840/日) 円	その他の経費(月額)	9,000(300/日) 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要(11月30日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	0名		
要介護3	5名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.1歳	最低	69歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	菊野病院・児玉病院・東外科胃腸科医院・かわなべ共立内科・米沢内科クリニック・深町歯科医院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホールにある大きな手作りのテーブルを入居者全員で囲み和やかに過ごしている。大家族を感じさせる家庭的な雰囲気のあるホームである。真っ白い馴染みある割烹着に身を包み、三角巾をして包丁を握る入居者の眼差しは真剣であり、今までの暮らしの延長として個々に応じた力を発揮する場面作りがされている。入居者の食の楽しみを大切にし、新鮮な野菜や釣りたての魚などを活用し豊かでおいしい食事を提供している。新しい入居者を快く迎え入れたり、創作活動では互いの作品を褒めあうなど入居者同士の絆が深いことはこのホームの特徴といえる。地域の6つの医療機関が協力病院であり、基本的に入居前からの継続医療の支援と相談協力体制が構築されており、入居者、家族の安心につながっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議録を作成し職員間での情報が共有されている。外部研修も伝達研修を行ない改善に取り組んでいる。重度化や終末期のホームの対応方針は現在も継続検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は各職員で取り組み、それを全職員で検討し意見を集約している。評価の意義の理解や日々のケアを再確認する機会となっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、ホームの行事や取り組みなどの報告をしている。行事計画についてや防災時の対応など出された意見を活かし具体的に質の向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関口に苦情相談窓口の明示をし、意見箱や訪問者への簡単なアンケートの設置、第三者委員を定めるなど意見を表せる工夫をしている。また、家族の訪問時に意見を表せるよう配慮している。出された意見を活かしホームができる最善の取り組みに努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の太鼓踊りの見学、小学校の運動会や祝典への参加、保健推進事業による地域交流会参加などや近隣者や小学生の訪問、中学生や教職員の職場体験の受け入れなど地域との交流ができています。運営者、管理者をはじめ職員や消防分団員なども近隣に多く居住しており、災害時など心強い連携ができています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	本人の持っている力を発揮しながら、地域の中でその人らしく暮らすことを目指し、地域密着型サービスとしての事業所独自の理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新規採用時に理念を説明し、ホーム内の理念の掲示や毎日の理念の唱和などにより日々理念の意識付けが図られている。職員は当たり前の事として理念を日々実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の太鼓踊りの見学や小学校の運動会・祝典への参加・保健推進事業による地域交流会参加・近隣者や小学生のホーム訪問・中学生の職場体験の受け入れなど地域との交流を積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各職員で取り組み、それを全職員で検討し意見を集約している。評価の意義の理解や日々のケアを再確認する機会となっている。評価を活かし質の向上につながるよう努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームの行事や取り組みなどの報告をしている。行事計画や防災時の対応などの出された意見を活かし具体的に質の向上に取り組んでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に事業所の考え方や実情・ケアサービスの取り組みなど常時伝える機会を作っている。担当者は親身になって助言をし、協力連携体制が構築されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	季発行の苑便りや家族の訪問時・状況に応じた随時の電話連絡などで、暮らしぶりや健康状態・職員の紹介など細やかに家族などに報告している。金銭は本人・家族等で管理する取り決めがされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口に苦情相談窓口を設置し、意見箱や家族等の訪問時に簡単なアンケートのお願い・第三者委員を定めるなど、気軽に意見を表せるよう配慮している。出された意見や要望は職員で話し合い反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の入れ替わりは少なく馴染みの関係作りができています。代わる場合は、職員同士が連携を図りながら入居者が動揺しないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修を行い入居者の状況・疾病・ヒヤリハット・外部研修での報告など、学びの機会を確保している。希望に配慮した外部研修の参加や資格取得に向けた応援体制もある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の同業者と交流する機会があり、相互訪問や相談連携を図りながら共に質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に職員が本人や家族に会いに行ったり、ホーム見学をしてもらう等、本人が納得した上での入居を基本としている。入居者全員でお出迎えを行うことで入居者同士の絆がうまれスムーズな入居となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の力を発揮する場面づくりを大切にしている。調理・園芸・洗濯物たたみ・人生についてなど、人生の先輩として入居者から教わったり、できるようになったことを一緒に喜びあうなどの関係ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や本人の性格を考慮し思いや意向の把握に努めている。言葉に表せない思いは、表情や言動・しぐさなどから職員間で情報を共有し、思いを汲み取るよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常的に本人や家族の意向を把握している。日々の申し送りや個別の記録・職員間の意見を聞き、それぞれの意見を反映した個別の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて介護計画を見直している。短期目標に添って細かにモニタリング評価がされ、家族にも意見を求めている。日々の申し送りやカンファレンスなどを通し状況把握に努め、状況の変化に応じた随時の見直しをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の意向や状況に応じ、通院支援や墓参り・外泊支援など柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入居前からのかかりつけ医であり、継続医療を実施している。その他の場合は本人や家族と話し合い納得の得られた医療機関を利用している。家族・医療機関と連携を密にしながら適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の状況に応じ、本人や家族・医療機関・職員が随時話し合っている。重度化や終末期についての対応方針は現在継続検討中である。	○	ホームができる重度化や終末期に対応する支援を職員や医療機関等と検討し、それを共有する取り組みが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	かごしま弁を交えながら、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう配慮した穏やかな言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いについても職員は理解して実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事・入浴など入居者一人ひとりの意向や状況に応じ、本人のペースで生活できるよう柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を具体的に提示して入居者が食べたいメニューを決めている。畑やプランターで収穫した野菜や捕れたての新鮮な魚などが食卓にあがり、食を楽しむ支援をしている。調理の下準備や片付けなど個々に応じ本人のできることを職員と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっていない。希望や状況に応じ柔軟に対応し、一人ひとりがゆっくりと入浴を楽しめる支援をしている。入浴が億劫な入居者には、声かけを工夫し、無理強いすることなく入浴できるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	プランターでの野菜作りと収穫の楽しみ・新聞の購読・お茶を注ぐ・調理の下ごしらえをするなど、生活歴や習慣など個々に応じた役割を活かしている。テレビや唄・外出・カレンダーづくりなど楽しみや気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の意向や状況・気候に応じて、散歩やドライブ・買い物など日常的に外出できるよう努めている。身体状況に応じて、シルバーカーや車椅子などを活用している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は入居者の状況を常にさりげなく見守り、安全に配慮しながら、日中は鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、昼・夜想定避難、通報、初期消火などの訓練を定期的実施している。近隣者や消防分団との協力体制も整っている。非常時の備蓄や備品・緊急連絡先・健康保険証の写しなども準備がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事・水分の摂取量を把握している。協力病院の栄養士より随時、栄養バランスなどの助言を得ている。入居者の状況に応じ、食事形態の工夫や疾病を考慮したカロリー摂取量の工夫・主治医との相談連携など個別の支援を柔軟にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールでは大きなテーブルを囲んで入居者が和やかに談笑したり、和室もソファが置かれ温かく家庭的な雰囲気である。テーブルには季節の花などを飾り、四季感を大切にしている。不快な音や光にも配慮された過ごしやすい共有空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス・位牌・仏壇・テレビ・くしなどの身の回りの品々や使い慣れたものがそれぞれ持ち込まれている。畳から床への変更や仕様が異なるベッド設置等、身体状況を考慮した工夫もある。各々が居心地よく過ごせる自分の居室となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。